

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連  (北海道)		一般小売店〔土産〕（経営者）	・現政権の経済対策の効果が北海道にも現れ始めている。また、アジア人観光客の動きにも助けられている。
		旅行代理店（従業員）	・夏場の観光繁忙期を迎えて、観光需要やスポーツ合宿などが例年どおり活発に動くと思われる。また、7月末に韓国からの国際チャーター便が就航するなど、外国人観光客においても当地を含めた広域観光圏への注目度が上がってきている。
		商店街（代表者）	・10月頃には青果物の収穫期となるため、今年の収穫量がどうなるかは分からないが、それなりの動きがみられることになる。
		百貨店（営業販促担当）	・7月の天候不順は特殊要因であり、継続的なものではないとみられるため、今後の天候回復により農作物の生育状況が例年並みに推移することになれば客足は戻ってくる。
		コンビニ（エリア担当）	・今後についてはやや良くなるとみられるが、天候不順などの影響で、原材料の高騰が見込まれることが懸念材料である。
		コンビニ（店長）	・競合店が改装で1か月ほど休業するため、今後については期待できる。
		衣料品専門店（店長）	・順調に来客数が回復しており、先物に対する問合せも増えているなど、購買意欲が上向いてきているとみられるため、今後についてはやや良くなる。
		乗用車販売店（経営者）	・当社主力の新型高級車の受注が順調に推移しており、今後の販売台数の伸長が期待できる。
		乗用車販売店（従業員）	・消費税増税の話題が客から出始めていることから、今後の駆け込み需要が期待できる。
		観光型ホテル（経営者）	・韓国便を始めとした航空路線が堅調に推移しており、予約が比較的好調なため、今後についてはやや良くなる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・引き続きWebでの個人予約が好調に推移していることから、今後についてはやや良くなる。9月の大型スポーツイベントもプラスに作用する。
		住宅販売会社（経営者）	・夏らしい季節が戻ってきていること、株式市場が踊り場を脱却し始めていることから、景気がこれから上向いていくことになり、建築関係の景気も良くなる。
		商店街（代表者）	・天候不順の影響で農作物に影響が出ているなど、先行きへの不安があり、客の購買心理にどのように影響するか不透明感が拭えない。
		商店街（代表者）	・客の動きに変化がないため、今後も変わらない。
		商店街（代表者）	・外国人観光客は順調に推移している。ただ、国の構成に変化がみられるようになってきている。国によって買う物も変わってくるため、商品構成に苦慮している。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・6～7月と売上は好調だったが、これよりも良くなることまでは考えづらく、今後も同様な状況で推移することになる。
		百貨店（売場主任）	・外国人観光客による需要が前年並みに落ち着いたことに加えて、日本人による売上也落ち着き始めてきた。世界情勢を含めても景気が上向く要素がみられないため、良くて現状維持で推移することになる。
		百貨店（担当者）	・ここ数か月のトレンドが余り変化しておらず、現在の流れが継続する。
		百貨店（販売促進担当）	・今年は例年よりも気温の上昇する時期が遅く、夏の期間が短くなることが見込まれる。盆を過ぎるとすぐに秋の気配となるため、衣料品を中心に商材を売りにくくなる。また、景況に影響するようなイベントなども例年どおりの開催となることから、景気の変化は余り起きない。
		百貨店（役員）	・月による好悪の変動が激しく、良いとも悪いとも予測が立てられない。
	スーパー（店長）	・全国的に猛暑や平成30年7月豪雨などの災害があり、農畜水産物への影響が出て、価格高騰が見込まれるため、今後も客の節約志向は変わらず、景気は横ばい又はやや悪くなる。	
	スーパー（店長）	・変わる理由が見当たらないため、今後も景気は変わらない。	
	スーパー（店長）	・現在、当店の周辺の道路が工事中であり、封鎖されている道路が何か所かあるなど、交通環境が非常に悪くなっている。そういうこともあり、景気の悪い状況になっており、今後も同様の状況が続く。	
	スーパー（役員）	・ローカル地域の人口減、ドラッグストアを含めた業態間のサービス競争がますます厳しさを増すことになる。業態間競争の厳しい状況は消費向上や景気向上にはつながらない。	

スーパー（役員）	・平成30年7月豪雨の影響で、物流の遅れ、果物や野菜の値上がり起きており、益商戦に向けてマイナスの影響が出ることになる。
コンビニ（エリア担当）	・今後については漁業、観光での期待が見込めることから、景気はやや良くなる。
家電量販店（経営者）	・特に良くなる要素がないため、今後も景気は変わらない。
家電量販店（店員）	・7月の落ち込みの反動で、景気はやや良くなることを期待している。
乗用車販売店（経営者）	・自動車業界では大きな変化が生じる環境にないことから、今後も景気は変わらない。
乗用車販売店（従業員）	・今後、新型車が出ても現在の販売状況は変わらない。
乗用車販売店（従業員）	・8月は9月の決算前のものであることに加えて、お盆で動きがやや少なくなることもあり、厳しい時期となる。9月は決算月であるため、多少回復することになるが、10月になるとタイヤ交換が始まるシーズンとなるため、厳しくなる。全体的に景気は変わらないまま推移する。
自動車備品販売店（店長）	・前年はタイヤの値上げを控えて、10月までの冬タイヤ購入が伸びたが、今年は前年比98%程度での推移が見込まれる。一方、エアコン、室内清掃、消臭など、車のメンテナンス需要が伸びている。
高級レストラン（スタッフ）	・知人の飲食店では、仕事のできる主婦パートが社会保険に加入して就業時間や収入を増やすケースが出てきている。これだけ観光が好調であっても、家庭の景気は上向いておらず、家計の支出が増えている状況にあるため、今後も景気は変わらない。
旅行代理店（従業員）	・今後も好調を維持する。
旅行代理店（従業員）	・客との会話の内容から、景気が好転するような材料が見当たらない。
旅行代理店（従業員）	・北海道のような広域エリアにとって、統合型リゾート（IR）の建設が決まることになれば、雇用を含めて景気が上向きになる可能性がある。
旅行代理店（従業員）	・来客数は横ばいで推移していることから、今後も景気は変わらない。
タクシー運転手	・乗務員不足が解消されないため、今後もタクシーの稼働の悪い状態が続き、会社の売上も前年比マイナスが続くことになる。
タクシー運転手	・外国人観光客や国内観光客からの問合せや見積りなどは例年並みの一方で、各種イベント時のオーダーが見込める。ただ、景気は変化のないまま推移する。
通信会社（企画担当）	・通信に付帯するサービスへの加入が増えているが、通信端末自体の販売で収益が向上する傾向が見えないため、今後も景気は変わらない。
観光名所（従業員）	・天候次第の面があるが、利用乗降客の増減について、これといったプラス要素もマイナス要素も見当たらない。
観光名所（職員）	・天候が安定しなかったものの、外国人観光客などの恩恵を受け、前年を上回る成績を維持できており、繁忙期に向けて引き続き好調に推移する。
美容室（経営者）	・天候の影響による農作物の不作や災害がない限り、7月と同じような売上で推移することになる。
その他サービスの動向を把握できる者【フェリー】（従業員）	・天候の大幅な悪化がなければ、今後も順調に推移することになる。
住宅販売会社（経営者）	・住宅価格の高騰が続いており、一般の住宅需要層が購入できる価格を大きく超えている一方で、低金利が続いていることで、どうにか需給バランスが保たれていることから、今後も景気は変わらない。
商店街（代表者）	・当地における夏季のイベントなどはほぼ終了することになる。また、時期的に外国人観光客は当地の周辺に立ち寄る傾向があるため、商店街としては地元客の日常的な買物が主体となってくる。このため、経済活動としては一休み状態に入ることになる。
商店街（代表者）	・シーズンオフに向かうため、今後についてはやや悪くなる。
スーパー（企画担当）	・燃料費の上昇、実質賃金の伸び悩みなどから消費者の買物行動は慎重さを増しており、チラシ、特売に対する感応度が極めて高い。この先も消費が自律的に改善するという予測は立てにくい。
コンビニ（エリア担当）	・漁獲量の回復が見込めず、今後も厳しいことが見込まれる。

	コンビニ（エリア担当）	・良くなる要素がない。今後も災害の影響で生鮮品の高騰が予測される。そのため、価格の安い大型店に客がますます流れる可能性が高まり、来客数の減少が見込まれる。安い価格を打ち出せば客は来店するが、目玉品のみの購入が進むことになり、全体売上にプラスの影響は現れない。	
	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・天候が異常であり、雨以外の理由で客足に影響するような状況は体験したことがない。顧客の来店を促す新たな施策が重要になってきている。	
	高級レストラン（経営者）	・天候不順の影響で野菜が不作となり、価格が高騰することが見込まれる。また、最低賃金の引上げや原材料の高騰で利益が出ないため、経営が大変になってくる。	
	高級レストラン（スタッフ）	・平成30年7月豪雨の被災者への配慮、異常気象などの天候不安により、客の購買が控えられることを懸念している。	
	タクシー運転手	・地元の夏祭りの時期を迎えているが、軒並み規模が縮小しており、人の流れと売上が直結してこなくなっているため、今後の景気はやや悪くなる。	
	通信会社（社員）	・買換えサイクルが長期化しているなか、新商材の発表まで僅かという時期的な影響もあり、買い控えが顕著となる。	
	美容室（経営者）	・人件費の高騰や消費税増税、働き方改革で中小企業はどんどん追い詰められていくことになる。	
	×	タクシー運転手	・春先の天候不順が農作物に影響しており、農業関係者の間では今季の収穫量が減少するとの話が出始めていることから、今後の景況を押し下げることになる。
	×	タクシー運転手	・当地の空港にLCCが就航するが、バス運賃の割引などがあることから、タクシーの利用頻度は余り高くないことが見込まれる。乗務員不足も改善の兆しはみられない。
企業 動向 関連  (北海道)	-	-	-
		建設業（経営者）	・今後については工事の最盛期となり、稼働率が上がる。ただ、毎年のことだが、職人、オペレーター不足が顕在化することにもなる。工事量は前年と比べて公共土木がやや減少する見込みとなっている。
		建設業（役員）	・降雨などの天候不順に伴う工事進捗への影響は限定的であり、大きな工期遅れは発生していないことから、年度前半は出来高が好調に推移することが期待できる。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・見積り依頼、機材の在庫確認が増加傾向にあることから、今後についてはやや良くなる。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・地域によるバラツキはあるが、全道的には建築関連企業が多忙のため、他業種にも景気の恩恵が生じることになる。また、電力関連の仕事が出始めているほか、災害対策などの仕事も見込める。
		食料品製造業（従業員）	・これ以上悪くなる要素は今のところ見当たらないが、平成30年7月豪雨や猛暑がどのように影響することになるか何ともいえない状況にある。
		家具製造業（経営者）	・2020年まではある程度の特需が見込めるものの、その後の冷え込み予測が拭き切れない。そのため、アクセルとブレーキを同時に踏み込んでいる現在の状況に変わりはない。
		建設業（従業員）	・稼働している建築工事の件数は増えているが、例年と比べて大規模な工事が少ないため、最盛期はそれほど長くないとみられる。
		輸送業（支店長）	・物量は見込めるが、労働力不足や燃料油の高止まりがもたらすコスト増、天候不順による農作物輸送への影響など、マイナス面の懸念も多く、今後については予断を許さない状況にある。
		輸送業（営業担当）	・6月からの長雨と日照不足で、農作物の収穫に不安がある。ただし、物流業としては、平成30年7月豪雨に伴い、北海道や他地区からの応援輸送が発生している。
		金融業（従業員）	・外国人観光客による消費は引き続き堅調に推移することが見込まれる。一方、個人消費はエネルギー価格の高止まりなどが重荷となり、期待されたほどの賃上げ効果が現れず、勢いを欠く状況が続く懸念がある。公共投資の減少も道内景気を下押しするが、総じてみれば先行きの道内景気は変わらないまま推移することになる。
		司法書士	・人口増加により、土地取引や建物の建築が増加しない限り、当業界の景気回復は望めない。
		コピーサービス業（従業員）	・客先の業績は伸びているが、慎重な姿勢は変わらない。
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・現在の状況が当面続く。	

		通信業（営業担当）	・受注量に大きな変化はないが、客単価は下落基調がみられる。客の予算、価格に対する目が総じて厳しくなっていることから、足元の景況感はやや悪化の方に振れることになる。
		司法書士	・不動産売買、建物新築の相談件数が少なく、現在の経済環境を踏まえると、今後も不動産の売買、建物の新築工事などの受注量の増加を期待できない。
		司法書士	・大雨や台風がもたらした膨大な損害を早く処理しなければ景気が後退することになる。政府による景気回復の施策が見えないなか、野菜の不足による値上がりなど、日常生活にも影響が出てきている。
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・人手不足によるチャンスロスが生じている。労働者派遣法や労働契約法の改悪が中小企業の経営を圧迫している状況にある。
	x	食料品製造業（従業員）	・原料のキャベツやタマネギの価格が、大雨や日照不足による不作の影響から、今後値上がりすることが見込まれるため、景気は悪くなる。
雇用 関連  (北海道)		-	-
		人材派遣会社（社員）	・夏商戦が盛り上がり、企業業績への好影響が見込まれる。一般の営業会社も現状以上の売上を確保できる見通しを立てている会社が多く、今後については地方景気の底上げが見込める。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・基幹産業である農業において、6月は天候不順で作況が心配されたが、7月以降、天候が持ち直したことで作況が回復傾向にある。また、外国人観光客を中心に観光客の入込が順調に推移していることなどから、今後の景気はやや良くなる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・地方の人口の年代構成もあいまってクライアントから若年者採用の厳しい現状の声が届いていることから、今後も景気は変わらない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・求人を出しても採用できないことで、企業が募集を手控える傾向は今後も変わらない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・公共工事の効果も一巡し、個人消費も横ばいで推移していることから、今後も景気は変わらない。内向的な経営者が多いことも影響している。
		職業安定所（職員）	・月間有効求人数が前年を上回っている一方で、月間有効求職者が減少する傾向にあるため、今後しばらくは求人倍率が前年を上回る傾向が続く。
		職業安定所（職員）	・有効求人倍率は8か月連続で前年を上回っており、業種によって人手不足の状況が深刻化している状況は今後も変わらない。
		職業安定所（職員）	・7月の大雨が、今後、農業に影響を与える可能性があることから、今後、当地の産業全体に影響を与えることが見込まれる。
		職業安定所（職員）	・世界的な不漁でイカの価格が高騰しており、イカを原料とする水産加工業者の業況に不安がある。
		学校〔大学〕（就職担当）	・新卒を採り切れていない企業にとっては、秋期リーグ戦が終了し、就職活動を再開又は初めてスタートさせる部活生との接触や内定出しが増えることが見込まれるが、無理をしてまでも内定は出さないというスタンスは変わらないとみられるため、2～3か月後も景気に大きな変化はない。
		x	求人情報誌製作会社（編集者）
		-	-